

清溪セミナー研修 2019.07.26-27 日本青年館

調査事項 3 「災害大国ニッポン、体験的防災論」

福岡 政行氏 (東北福祉大学特任教授)

作成者 保守の会：吉田つとむ

### <概要>

講師の福岡 政行氏 (東北福祉大学特任教授) は、かねてより、フィールドワークを取り入れた学者として知られ、政治評論家としても長い経験を持たれる人物です。

そこで、講演のタイトルが「災害大国ニッポン、体験的防災論」とされた次第です。

阪神大震災以降、福島原発事故などなどを語られ、その際に応じて、政治家の有り様と語られました。政治家は最悪を予想する、とっさの判断力を有する意義を述べられました。



他に、現下の課題を述べられました。子ども食堂が全国4000か所で点秋されていること、毎年1000か所で新たに開設されていることが述べられました。

他方で、シルバー食堂が合わせて必要ではないかと述べられました。場所的に、それを併設したのもも提起され、一人暮らしの高齢者の憩いの場を作ろうというものでした。

また、その手法は、<民官一体>とされ、ボランティアで公務員が支えるものが想起され、一般の参加者は有償ボランティアと見なされています。

<所感>

事故や災害が発生した場合、大半は同じ災難が降りかかっても、個人ではけがの大小や、体や財産が無事だった人もおり、その相違点はどこか、重要な課題だと思います。

また、被災に際して、リーダーの判断が問われることが多々ありますが、実際に発生した災害、被災が起きた場合は、自分の決断の可否を絶えず、検証するべきだと思います。

今回提起された、シルバー食堂に関して、それを地域で運営していくことの重要性が高まってくると思います。

現行、デイサービスや配食事業サービスがありますが、それらの負担が困難な人の場合、重要な意義があるでしょう。ある意味、単に、一人で暮らしている高齢者がこのシルバー食堂事業にもっともかかわりが生じる可能性があると思います。それは、将来的な負担をどこで、どのような方法で軽減するかという課題ですが、この福岡氏の講演課題はその対処法に通じるものを感じました。